



「外為短期投資家動向調査」結果

<第24回調査>

2011年5月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年5月17日(火)13:00~2011年5月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、1080件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

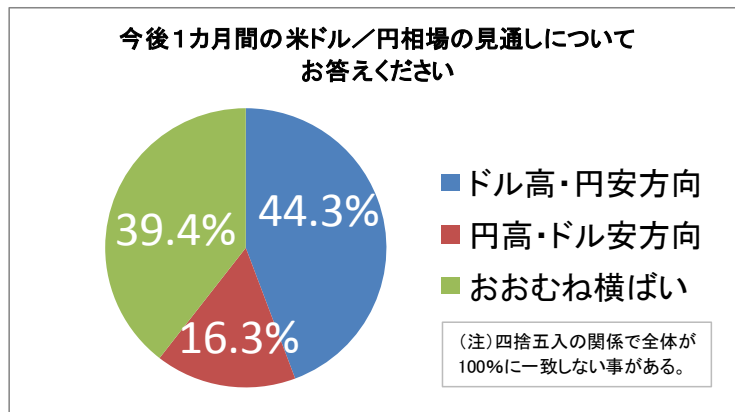
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第24回調査結果略報：ドル円DI、2カ月連続プラスを維持】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

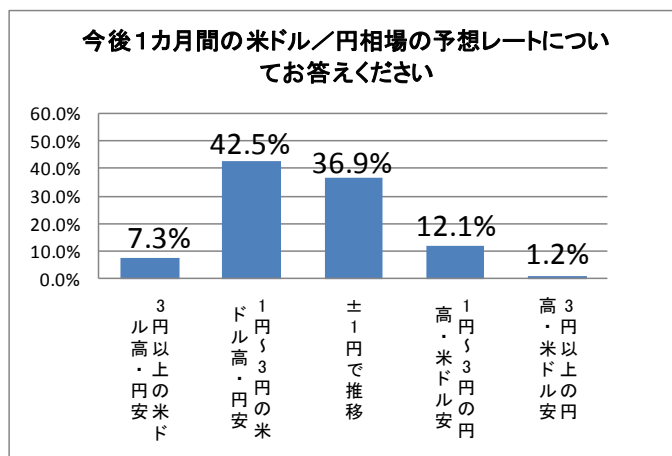
「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が44.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が16.3%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+28.0%ポイントとなり、前回調査(+27.5%ポイント)に続いてドル高・円安予想が優勢となった。調査期間中のドル円相場は80円台後半から82円台前半で比較的堅調に推移しており、ドルは円以外の通貨に対しても幅広く上昇した。3月から4月にかけて大きく進んだドル安の流れが反転する兆しを見せる中、FX投資家は、6月末の米量的緩和第2弾(QE2)終了を睨んで、当面はドル高局面が続くと見ているようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が42.5%と最も多く、次いで「±1円で推移」が36.9%、「1円～3円の円高・米ドル安」が12.1%、「3円以上の米ドル高・円安」が7.3%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.2%の順になった。ヒストグラムの形状はドル高・円安方向に偏っており、問1でドル高・円安予想が優勢となった結果と整合的と言える。ただ、「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」と答えた合算割合が8割近くを占めており、FX投資家層は「円安傾向は今後も続くが、値動き自体は控えめ」と予想しているようだ。

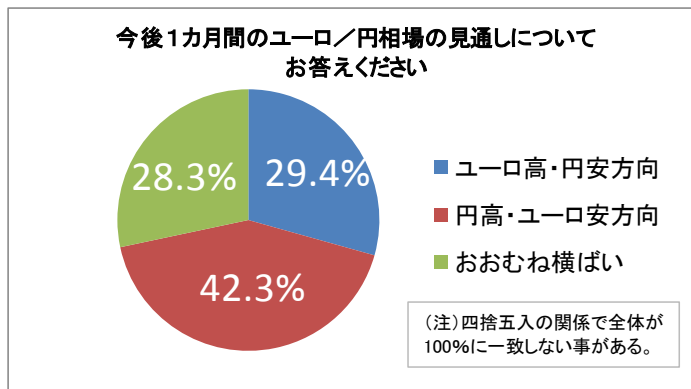


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

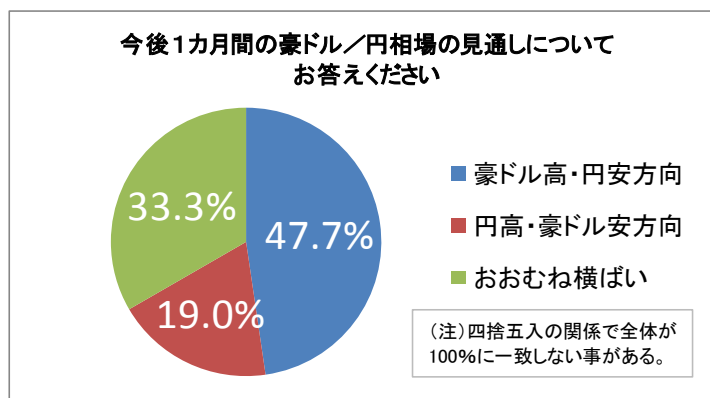
「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が29.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が42.3%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は-12.9%ポイントとなり、前回調査の+13.1%ポイントから再びマイナスに転換した。調査期間中のユーロ円相場は、113円台後半から117円台前半で推移したが、この間、スペインでは地方選挙で政権与党が大敗を喫し、イタリアやベルギーの格付けも引き下げの方向に見直された。ギリシャに加え、これらの国々でも債務懸念が台頭しつつある事がFX投資家のユーロに対する弱気な見通しにつながったものと思われる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が47.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が19.0%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+28.7%ポイントとなり、前回調査の+31.0%ポイントに比べるとプラス幅はやや縮小したものの、依然として高水準の強気予想を維持している。調査期間中の豪ドル円は85円台前半から87円台半ばで比較的小幅な値動きにとどまった。世界的な景気減速懸念が台頭する中、主要国の株価や国際商品価格はやや調整ムードとなっているものの、FX投資層の豪ドルに対する強気な姿勢は崩れていないようだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

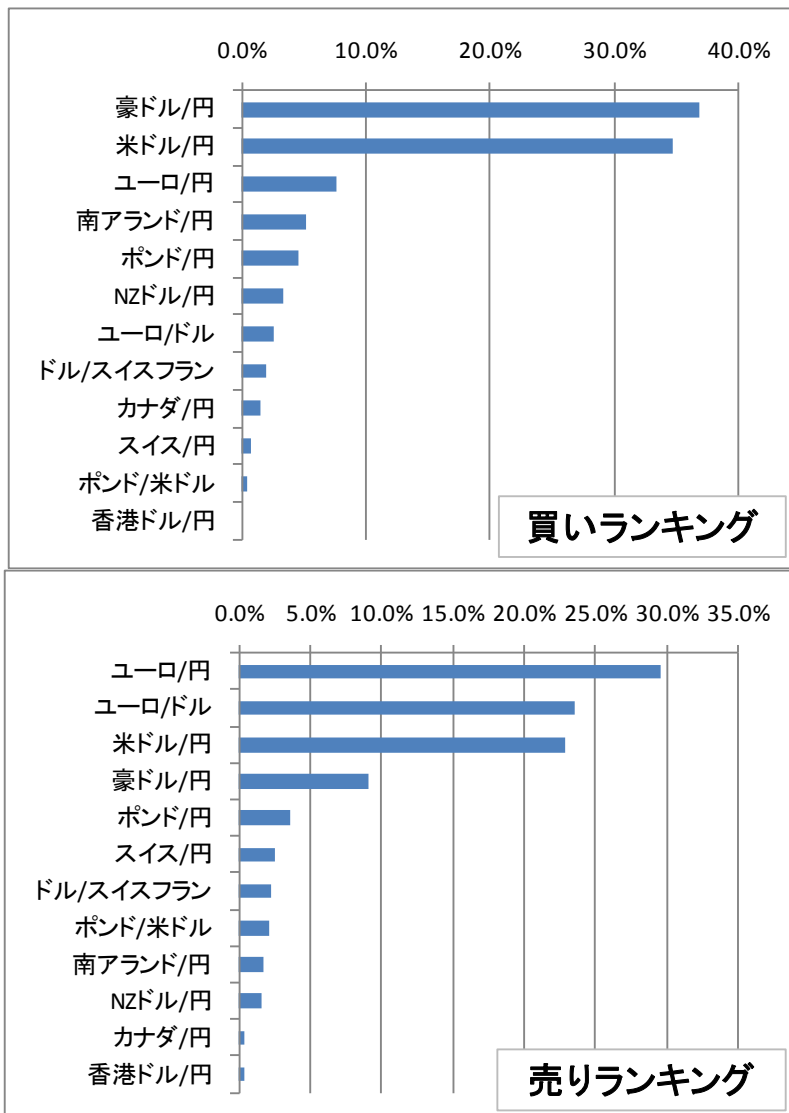


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(36.9%)、2位ドル円(34.8%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(7.6%)、4位南アランド円(5.3%)、5位はポンド円(4.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(29.5%)、2位ユーロドル(23.6%)、3位ドル円(22.9%)、4位豪ドル円(9.2%)、5位ポンド円(3.6%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは今回も豪ドル円とドル円が人気を二分する形で、合算の回答割合は7割を超えており、FX投資家の両通貨ペアに対する人気は不動のものとなっている。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、ユーロ円とユーロドルが1、2位を占めた。5月に入り繰り返し取り沙汰される欧州債務問題を背景に予想DIがマイナスに転じ、ユーロ安予想が優勢となった問3の結果と整合的なものとなっている。

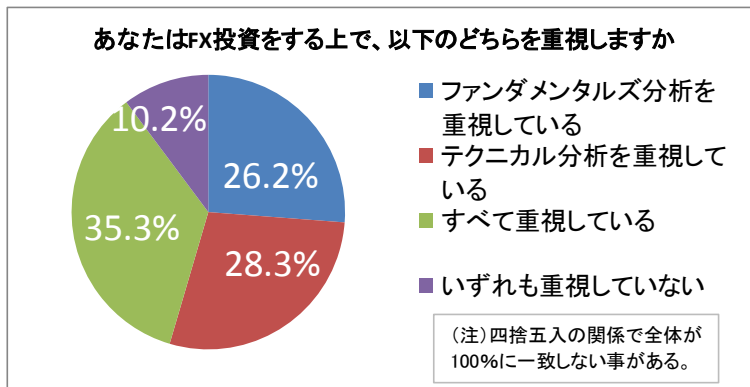


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

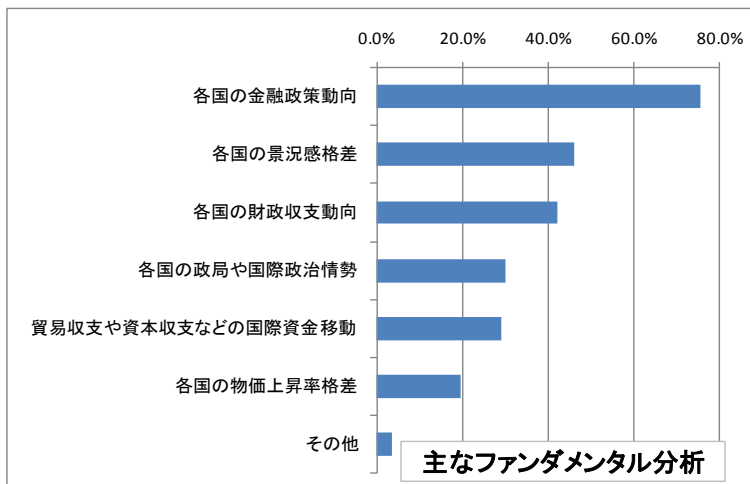
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が28.3%であったのに対し、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.2%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.3%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.2%となった。過去の調査結果でも、概ね同様の回答割合が示されており、今回もFX投資家の分析手法の好みに大きな変化は見られない。また、「いずれも重視していない」との回答割合が毎回1割前後に達するが、これらのFX投資家が何を頼りにFX投資を行っているのか次回以降の調査では是非尋ねてみたいところだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(75.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(46.3%)」、「各国の財政収支動向(42.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(30.1%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(29.1%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めている。4月には欧州中銀(ECB)が利上げを実施し、追加利上げを示唆。米国でも4月の連邦公開市場委員会(FOMC)で金融緩和からの「出口戦略」が議論されるなど、主要国でも金融政策の変更が見込まれる中、為替相場を動かす基本的な要因である「金融政策格差」に注目するFX投資家が多数を占めている。

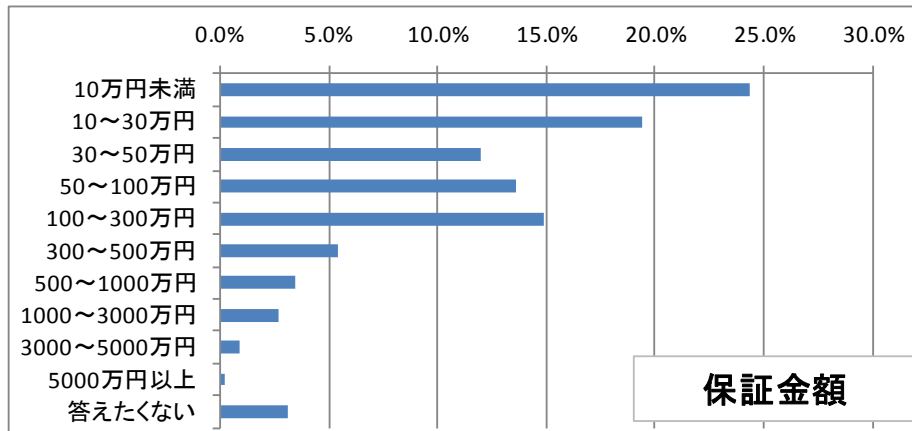


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

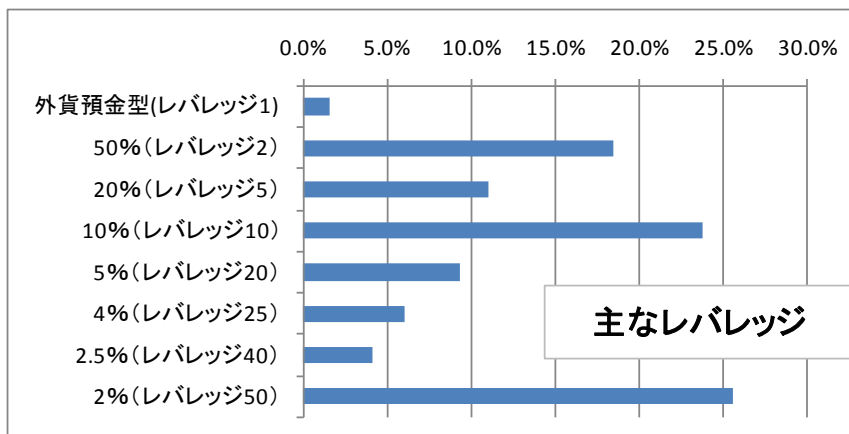
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.4%と最も多く、以下「10～30万円(19.4%)」、「100～300万円(14.9%)」、「50～100万円(13.6%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家がほぼ7割を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は3.8%にとどまった。比較的少額の保証金で取引を行うFX投資家が多数を占める傾向に大きな変化は見られず、不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを再確認させる内容になっていると言える。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「2%(レバレッジ50)」がと答えた割合が25.6%と最も多く、以下「10%(レバレッジ10)」が23.8%、「50%(レバレッジ2)」が18.5%、「20%(レバレッジ5)」が11.0%と続いた。前回調査に続いて「2%(レバレッジ50)」と答えた割合が4分の1以上を占めてトップの座を守った。ただ、今年8月には「2%(レバレッジ50)」は廃止となり、「4%(レバレッジ25)」が上限となる事が決まっている。昨年8月の第一次レバレッジ規制に際しては、一部業者が前倒しで100倍以上のレバレッジを廃止した事もあって規制実施を待たずに規制後の上限である50倍へのシフトが進んだ。今後のFX投資家のレバレッジ選択が、第二次規制の前後でどう変化するのか注目される。

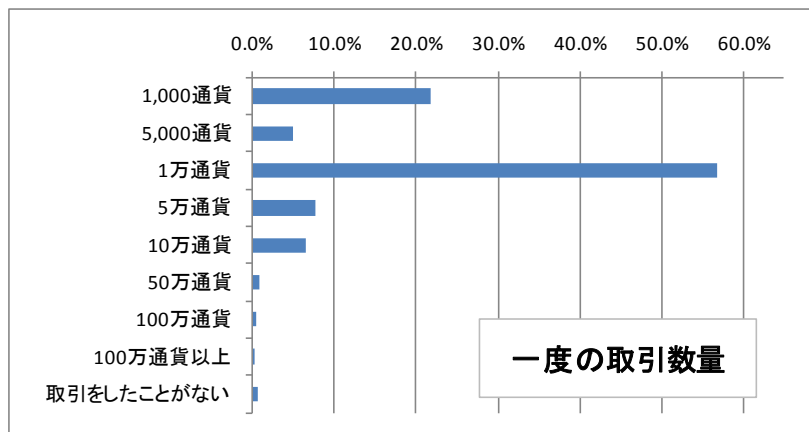


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

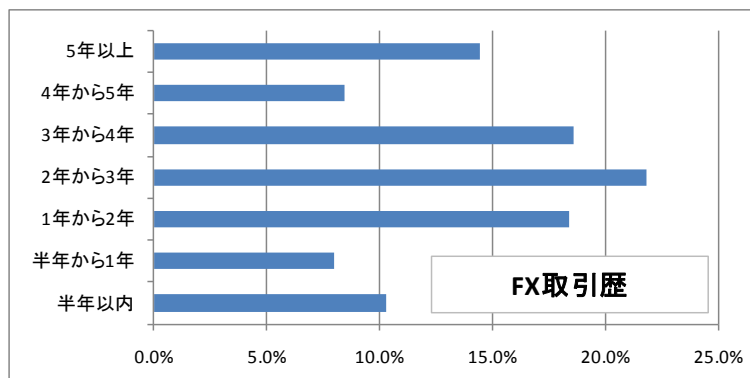
問10: FX取引において一度の取引で注文する数量で最も近いものはどれでしょうか？

今月の特別質問項目としてFX取引において、一度の取引で注文する数量で、最も近いものはどれでしょうかと尋ねたところ、「1万通貨」と答えた割合が56.9%と最も多く、次いで「1000通貨(21.9%)」、「5万通貨(7.7%)」、「10万通貨(6.6%)」、「5000通貨(4.9%)」と続いた。「100万通貨以上」と答えた合算割合は0.7%にとどまるなど、大口投資家はごく少数である事が示された。また、自由記述形式でその理由についても尋ねたところ、「1000通貨」と答えた中では「初心者だから」、「自信がないから」などの回答が多かった。「1万通貨」と答えた中では「計算しやすい」、「キリがいい」、「1万通貨単位で数口に分けて指し値を置くため」との回答が目立った。また、「100万通貨以上」の大口投資家からは「取れるリスクの中で最大限に効率が良いから」との回答もあった。



問11: FX取引を始めてからの”取引歴”をお答えください

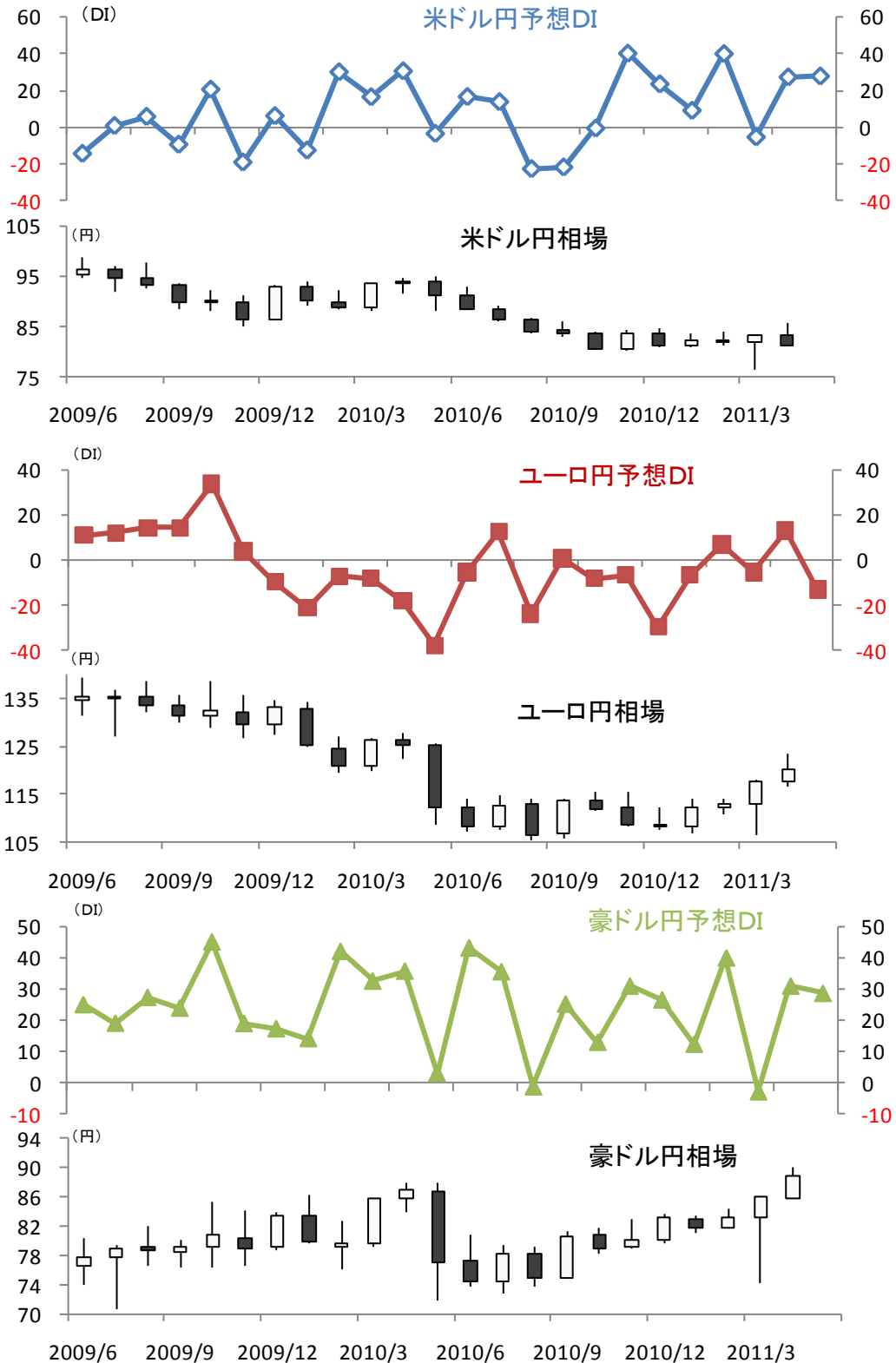
今月のもう一つの特別質問項目としてFX取引を始めてからの”取引歴”をお答えくださいと尋ねたところ、「2年から3年」と答えた割合が21.9%と最も多く、次いで「3年から4年(18.6%)」、「1年から2年(18.4%)」、「5年以上(14.4%)」と続いた。1998年の日本でのFX取引解禁以来13年が経過しているが、当時から取引を続けるFX投資家は少数であり、取引歴5年未満の比較的经验の浅いFX投資家が大多数を占めている事が示された。また、ここ半年以内に取引を始めたFX投資家が全体の10.3%を占めるなど、FX投資家のすそ野は依然として拡大中であると言える。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第24回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後約2年が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月									

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com